

招待講演：

東日本大震災と CDS 研究会への期待

白鳥 則郎†

1000年に一度と言われる東日本大震災に遭遇した今、一人一人の生き方が問われている。学会の研究会も例外ではない。特にCDS研究会は、震災直後に発足という「巡り合わせ」に大きな意味と役割を意識し、戦後ならぬ「災後」の21世紀をリードし本会だけにとどまらず、日本を牽引して欲しいと期待し願っている。今回の震災で明らかになったことの一つは、従来の方法論と評価基準を越えた新しい考え方が求められ必須になっていることである。例えば、CDS研究会に即して言えば、論文の価値として「新しい評価基準」を創り、従来にない方向を目指すことに注目しその波及効果を期待しているところである。会員増を含め本会の活性化へ向けた突破口になることを祈念している。

† 東北大学